

秋田公立美術大准教授

(景観デザイン)

菅原香織さん



東北の地に何世代にもわたって受け

継がれてきた「技」を現代的な観点からみつめなおし、新たな生業として再構築することを目指す「この地に技ありプロジェクト」の一環として、「コアトリエとうほく サミット&マルシェ」を一日、仙台市のせんだいメディアアテークと勾当台公園市民広場で開催しました。

東北の伝統食・工芸・住環境な

SDGs 国連が2030年までに解決を目指す持続可能な開発目標。本稿に書かれた目標は「持続可能な開発および自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つ」。

マルシェでは東北各地の「技」を購入できるブースや、こだわりの食のブース、スレート葺や茅葺体験のコーナーなどが並び、東北の地技の魅力と多様性を、出展者も来場者も相互に味わい楽しむことができました。

サミット会場のせんだいメディアアテークでは「住」「衣」「食」のセッションで、それぞれの地域の資源と技を生かして奮闘する人々の活動紹介と活発な談議が繰り広げられました。

「住」では野鍛冶と鋏(新潟県三条市)、小さな茅葺小屋から風景を育てる(秋田県横手市)、天

## 東北の技、見つめ直す

ど地域資源を生かした生業の場を「アトリエ」と捉え、それらの共創の現場「コアトリエ」からの新たな価値の創出や連携の可能性を探るイベントです。

秋田県北秋田市の阿仁マタギのブースでは、熊の毛皮や牙を販売した

仙台市で



然スレート民家と千軒講(宮城県石巻市ほか)。「衣」は木工(岩手県洋野町)、養蚕と絹織物(宮城県丸森町)。「食」は山の恵みをいただく阿仁マタギ(秋田県北秋田市)、和ぐるみ採取と被災者支援(盛岡市)、発酵と交流(宮城県大崎市)、唐桑半島の未利用海産物活用(宮城県気仙沼市)など。

地域資源を生かした景観デザインを研究テーマとする私にとって、このプロジェクトへの参画は、東北の地域資源の豊かさ、新しい価値観を持ち活動する次世代の台頭を改めて知る機会となりました。今後も「コアトリエ」の研究開発を通じて、未来に遺したい東北の生業景を伝えていきたいと思えます。

※この連載は、NPO法人JK SKによる『結結プロジェクト』の協力を得ています。